

令和5年度(2023年度) 第1回 函館市地域学校協働活動連絡会議 会議録

日 時	令和5年5月31日(水) 13:30~15:50
場 所	南北海道教育センター 大会議室
参加者	工藤委員, 梅田委員, 京谷委員, 酒井委員, 神田委員, 齊藤委員, 廣島委員, 高田委員, 吉村委員, 干山委員, 中村(ひ)委員, 梶原委員, 阿久津委員, 中村(和)委員, 吉田委員, 照井委員, 田中委員(17名)
事務局	金野教育政策推進室長, 小棚木学校再編・地域連携課長, 井本主査, 石川主任主事(4名)
傍 聴	なし

1 開 会

(事務局)

本日はご多用の中、お集まりいただきありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまから、令和5年度(2023年度)第1回函館市地域学校協働活動連絡会議を開会いたします。

本会議につきましては、函館市情報公開条例第26条の規定に基づき原則公開となります。本日の議事等につきましては、非公開となる内容がないと考えられますので、全ての会議が公開となりますがよろしいでしょうか。

—異議なし—

会議終了後には、発言要旨を取りまとめた会議録を作成し、公表することとなっておりますので、ご承知おきください。会議録につきましては、後日、出席された委員全員に確認していただく予定であります。続きまして、今年度より新たに活動していただいている地域コーディネーターもおりますことから、皆様全員をご紹介しますさせていただきます。資料の名簿順にご紹介させていただきます。

(※ 委員名簿に沿って地域コーディネーターを紹介)

令和5年度につきましては、以上27校・1園17名の地域コーディネーターの皆様にご活動いただくとともに、本会議の委員としてご参加いただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

2 座長の選出

(事務局)

続きまして、次第2「座長の選出」に入ります。要綱第5条第2項の規定により

まして、座長を委員の互選により定めることとなっております。

それでは座長の選出につきまして、委員の皆様にお諮りいたしますが、いかがいたしましょうか。よろしければ、事務局から提案させていただきたいと考えますが、よろしいでしょうか。

－異議なし－

異議がないようなので、事務局から提案させていただきます。座長につきましては、函館市教育委員会の学校教育指導監で、青柳中学校・青柳小学校・弥生小学校・あさひ小学校の地域コーディネーターであります工藤委員にお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

－拍手－

ご承認いただきありがとうございます。それでは、工藤座長から、一言、ごあいさつをお願いします。

(工藤座長)

皆様、こんにちは。令和4年度より、青柳中学校・弥生小学校・青柳小学校・あさひ小学校で地域コーディネーターを務めております、函館市教育委員会 学校教育指導監 工藤でございます。昨年度から、青柳ネット地域コーディネーターを務めていく中で、4校校長が集まったの研修会や学校運営協議会で熟議を重ねていき、改めて、地域と子どもたちとのつながりを深めていくことは、子どもたちの豊かな心の育成や地域の安全安心のためには欠かせないことであると感じております。その中で、地域コーディネーターの皆様が担ってくださっている学校と地域のパイプ役という存在は、今後、学校にとっても地域にとってもより重要な役割となるものと考えております。本日は、お互いの活動や意見を共有することで、自分の地域のみならず、函館市全体で子どもたちを守り、豊かな心を育むきっかけとなるような有意義な会としていければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、要綱第5条第4項では、座長に事故等がある場合は、あらかじめ座長の指名する委員がその職務を代行するとしております。座長職務代理者につきましては、酒井委員にお願いしたいと考えております。

(酒井委員了承)

どうぞよろしくお願いいたします。

3 趣旨説明

(事務局)

それでは、次第3「趣旨説明」に入ります。私からは、「地域コーディネーターの役割と重要性について」ご説明いたします。

(※ 説明)

4 今後の方向性等に係る検討

(事務局)

それでは、次第4「今後の方向性等に係る検討」に移ります。ここからの会議の進行は、工藤座長にお願いします。

(工藤座長)

工藤でございます。よろしく申し上げます。今後の方向性の検討として、事例発表に入る前に、まずは事務局から説明を行います。ここからの司会・進行につきましては、事務局にお願いします。

(事務局)

では、事務局の方で進めさせていただきます。発表の順番につきましては、委員名簿順となっております。最初に、港中学校・港小学校 梅田委員から、発表をお願いします。

(梅田委員)

港中学校・港小学校を担当しております梅田と申します。私たちのエリア、港小学校・港中学校を港地区といたしまして、合同でコミュニティ・スクールをやっております。そして、港地区のコミュニティ・スクールの目的は、港地区で暮らす子どもたちを地域の方たちと一緒に育てていくことです。構成としましては、港小・港中それぞれの学校運営協議会委員を中心に活動を行ってききましたが、令和4年度はより広く、校区内にある幼稚園、保育園、子ども園、北大水産学部等の教育機関、校区内3つの町会、そして地域住民とつながりを広げたメンバー構成になりました。それが資料1の図になります。今後は、地元企業ともつながりを深めていけたらと思います。

先に、MAPSという名称ですが、これは港アカデミック・パッケージ・システムズとあって、学校と地域でつくるこれからの学びの地図という意図があります。目的は、皆さんと同様、地域と学校が連携・協働して、地域全体で港地区の未来を担う子どもたちを育むというのが柱となりますが、私たちは地域へのお願い事イコール町会役員という概念ではなく、幅広い地域住民の参画を念頭に置いております。現在協力していただいているMAPSのメンバーは、個々に依頼した地域住民が主体で、58

名の登録者がおり、全員に腕章を配付し、活動をしていただいているところです。

それでは、資料に沿って、令和4年度の活動内容・令和5年度計画案を紹介させていただきます。まず、最初の地域協働会議室の常設です。こちらは、コミュニティ・スクールの発足と同時に、中学校の家庭科準備室を開放してくださっています。私が、実績報告書を持参し、打ち合わせを行う際、こちらを活用しています。

次に、地域合同避難訓練です。目標・取組については記載のとおりですが、令和4年度につきましては、小学校は9月10日の学習参観日に合わせ、子どもたちが校区で避難をする際、危険な箇所などを調べた内容を発表しました。中学校では10月14日に避難訓練を行い、その後、自然災害特例授業として、実際に東北の被災地に向いた先生から避難の在り方についてレクチャーをいただきました。

続いて、がん教育です。こちらは函館病院の看護師が講師となり、リモートで子どもたちの質問に答えるという一步進んだ授業を行いました。その下の地域ボランティア、子どもの安全見守り隊というのは、先ほどの腕章をつけて活動してくれているMAPSメンバーの人たちで、令和4年度は学期ごとの始業日に合わせて、各々の住んでいる地域で、登校時、声掛けをしていただいたところです。さて、令和5年度の計画です。MAS（みなとアフタースクールスタディ）とありますが、そちらを開設する予定です。字のごとく、放課後や部活までの空き時間に中学生が自習できる場となります。以前から北部港町会というところが、近隣の子どもを対象に北大生に勉強を教えてもらえる「自習学館」というのをやっていました。その取り組みをそのまま中学校に移管し開設しようというもので、現在調整中です。

そして、その下の図書館ボランティアというのは、コミュニティ・スクールができる前に実施していたものになりますが、コロナで中止となっております。この度学校側の意向とマッチしたため、今後の実施に向けて調整中です。最後に、コアチームの設置を考えております。コミュニティ・スクールの会議の際には、20名近い出席者のため、議事についてのやりとりがあるのですが、さらに活動を詰めていく際の打ち合わせまで、できない状態です。そこで、細分化したメンバー構成の方が活動を活性化できるのではないかということで、教頭先生、事務局、コーディネータープラス担当委員を決めて、お知恵をいただきながら膨らませていこうと思います。港小学校・港中学校合同での、港地区の活動については以上になります。ありがとうございました。

(事務局)

ありがとうございました。では、質疑応答に入らせていただきます。質問やご意見などありましたら、挙手をお願いします。

（事務局）

深堀中学校・駒場小学校・深堀小学校 京谷委員から、発表をお願いします。

（京谷委員）

京谷と申します。普段は、地域包括支援センターという高齢者の総合相談窓口で勤務しております。私の方は3校、深堀中学校・駒場小学校・深堀小学校を担当しています。担当している校区内の町会が13町会ありまして、ちょっと広いかなと思って活動しています。この3校を通して、学校のニーズとしては、子どもたちがボランティアの活動をしてみたいと言うけれども活動の場がないということでしたり、何かしたいけれどもコロナの影響もあって何をしたらいいかわからないという子どもたちも多いというところで、何か地域と接点を持てるような機会があればいいというものでした。学校の先生たちは転勤があるので、そこの地域にどんな社会資源や人材があるのかがわからないというところで、そういう情報提供もくれればありがたいというところからスタートしています。また、町会のニーズとしては、担い手がいないだとか高齢化しているだとか、若い世代の人たちが全然町会に加入していなかったりというところで、地域に愛着を持っている子どもたちが少なくなっていると聞いているところでした。地域コーディネーター1年目ということで、5つの企画と5つの出前講座と他にいくつか活動があったので、それを中心に報告したいと思います。

まず、この「ぶらりふかぼり」について、これは深堀中学校の生徒と深堀町会の会員が一緒になって、深堀地区の高齢者がコロナ禍で閉じこもりにならずに、外を元気に歩けるようなマップができたらいいいということで、深堀中学校の生徒さんが作ってくれたマップをもとにしてお散歩するグループを「ぶらりふかぼり」というネーミングをつけて活動をしているという状況がベースとしてありました。令和4年度では、その「ぶらりふかぼり」で歩くタイミングに合わせて、深堀小学校の児童と一緒に活動ができないかというところでマッチングをしています。これが8月上旬で、コロナの感染者数がすごく増えた時期にぶつかってしまったのですが、屋外の活動だからということで実施しました。参加者の中には、普段は杖もついてお身体の具合もちょっと良くない方ではあるんですが、樹木に詳しい方がいて、小学校にある木について、子どもたちに名前や由来をお話してくださったり、木の高さの測り方も教えてくれて、交流の機会になりました。

次に、2つ目の企画です。9月に深堀中学校の体育館で、「もったいない市 in 深中」を行いました。東深堀町会と深堀町会の2町会、深中、深小の4つの団体で一緒に行ったんですが、内容としては、自分ではもう使わないけれど他の誰かは使ってくれるかも、必要としているかもという物を町会で集めてくれて、必要とする方は直接中学校に来てもらって無料でもらっていってもらおうというものでした。会場の設営や体温チェックも子どもたちがやってくれたりだとか、品物の受け渡しも、小学生と中

学生がチームを組んで担当していました。この時は子どもたちがどこまでできるのか全然見通せなかったのが、子どもたちの仕事は控えめにしていたんですけれども、子どもたちからは「もっと自分たちは出来る」、「最後まで手伝いたい」という意見も出てたので、やっぱり子どもたちってすごく力があるんだなと感じた場面でした。私の方でうまく子どもたちに役割を持たせてあげられなかったことに課題を感じたところだったのですが、勉強になりました。

次に、企画の3つ目です。毎年全市一斉クリーングリーン作戦が全市的に行われていると思うんですが、この日に合わせて、東深堀町会と深堀町会の町会に、深中の子どもたちが参加してゴミ拾いをするというマッチングを行いました。深中からも、ボランティア活動がしたいということで結構多くの子どもたちが参加してくれたんですけど、中学校だけのつもりが小学生も参加してくれて、小学校・中学校・地域の方の3世代でゴミ拾いが出来て、交流も深まったかなというところでした。

大きい企画が次の2つなんですが、1つ目は「深堀ひろば」というもので、これは深堀町会と深堀中学校・深堀小学校が行ったものです。これは小学生への学習サポートということで、冬休みの初日に合わせて、深堀町会館で、町会の方の見守りの中、学校で出されたドリルや自分がやりたい宿題を持ってきてもらって、中学生が教えるという取組でした。保護者の方も見学に来ていて、「家では全然集中して勉強しないけれども、お兄さんお姉さんに教えてもらおうとすごい集中してやっていたので、ぜひ続けてやってほしい」というような声も出ていました。長期休みの度にやってほしいという話もあったので、町会の方でも予算化して企画していけそうなものにつながっています。

次に、最後の企画ですが、先ほどの「深堀ひろば」の活動の第2段ということで、小学校・中学校のPTAの方から、SDGsを理解できる子どもになってほしいというニーズもあったので、町会の港踊りで使っていた捨てる予定だった浴衣をウエスにリメイクをして必要な方に使っていただくという取組をしました。子どもたちも楽しんで作業に取り組んでいました。ティッシュペーパーの箱を空にしたものを持ち寄って切ったウエスをティッシュのように取り出せるように町会が指導しながら行いました。町会館の向かいがちょうど深堀小学校でしたので、小学校の方に寄贈しました。小学生と中学生と一緒に作って一緒に持って行ったんですけど、学校の御配慮で、中学生の小学校時代の担任の先生を呼んでおいてくれて、中学生もとても喜んでいました。

それ以外のところでは、出前講座として、私が学校でお話させていただいたものが5つ企画としてありました。まず、認知症サポーター養成講座ですけど、深堀小学校の前校長先生から、小中が連携した9年教育を意識していこうということで、深堀中にあがってきたときに深小と駒小の子どもたちの経験の差が少ないようにとおっしゃってくださって、深堀小学校の4年生と駒場小学校の4年生で認知症サポータ

一養成講座を実施しました。他にも2校で車いす体験を実施したり、駒場小学校では高齢者の疑似体験を実施しました。どの出前講座でも、子どもたちに、自分たちができることってなんだろうというのをグループで話し合ってもらって、模造紙にまとめて発表してもらい、振り返り・共有をしました。

その他の活動ということで5種類行っています。深堀中学校は、1年生に地域産業体験での訪問先とインタビューさせてもらえる機関15か所と、2年生の総合キャリア教育での職業講話の講師8人を調整させていただきました。地元に関心した方を講師として依頼したこともあって、薬剤師とか美容師の方をお願いしました。お願いした薬剤師の方もたまたま深中出身で、子どもたちからは自分の学校の卒業生でも薬剤師になれるんだという声が聞こえてきたり、国立病院の師長や部長にも来てもらい、病院で働くことのメリットについてお伝え出来たところは良かったと思います。深堀小学校の方では、まち歩き探検だったり、そのインタビュー先の調整をしたりとか、PTA役員会に参加して委員の方からお声を聞いたり、駒場小学校の方では手話の講師としてろう学校の校長先生をマッチングさせてもらったりという活動をしていました。

1年目で本当に何をどうやっていいかわからなかったんですが、南本通小学校の七夕や巴中学校の学習サポートを見せていただいたり、細かくアドバイスいただいたり、先に活動していらっしゃる先輩方のお話を聞いたことが、自分が活動するうえで本当にありがたい部分だったなと思うので、すごい感謝でいっぱいです。

これらの活動について函館市保健福祉部地域包括ケア推進課から福祉のまちづくりフォーラムで発表してほしいとのことで、「ふかぼりひろば」とか、一緒に地域と町会と学校で協働で行ったことについて発表させてもらう機会があったので、深中の生徒も一緒に発表してもらいました。ボランティアしてみてどうだったかということで、「勉強をわかりやすく教えるのはやってみると難しかった」、「やる前は苦手意識もあったんだけど実際にやってみると楽しく活動できてうれしかった」、「地域全体に目を向けてこれからいろんなボランティアをやってみたいなという気持ちになった」、「楽しい交流の場だった」との感想がありました。「いろんな世代の人が集まるとこんなに楽しいんだって知らなかった」、「これからは友達も誘ってみたい」との声もあり、何が自分にできるのか、何をしたらいいのかというのがわからないというのが中学生の思いだということで、少しずつ自分たちの経験を伝えながら、これからは積極的に参加していきたいということを言っていました。自分たちの提案や行動で地域に貢献できることがあるというのが初めてわかったというところで、自分たちでも地域の人を元気にすることができるという経験ができたので、これからはお互いがいい気持ちになれるような活動をたくさんしていきたいということをお話してくれていました。それに応えていけるような土台をちゃんと作ってあげることがCSの役割なのかなと思って、勉強させていただいた部分でした。

最後ですけれども、深堀中学校は新しい伝統を作っていこうというテーマで取り組んでいる学校なんですけれども、小学生と中学生が連携していろんなボランティア活動をして、地域を元気に、一緒に地域とともにある学校というのを作り上げていくのをこれから新しい伝統として目指したいと言ってくれてたので、それに応えられるように引き続き活動していきたいなと思っているところでした。以上です。

(事務局)

ありがとうございました。では、質疑応答に入らせていただきます。質問やご意見などありましたら、挙手をお願いします。

(事務局)

千代田小学校 阿久津委員から、発表をお願いします。

(阿久津委員)

千代田小学校は、今年新入生が6名、全児童で67名で、街中にあるのに児童数も世帯数も年々少なくなっている状態です。その中で、皆さんのように、これぞCS活動っていう活動がなかなかできていないのが現状で、これからはコロナもあけてきたので、少しずつ進めていけたらいいと思っています。今から紹介する活動はCSが始まったから始めたという活動ではなくて、私がPTAの時からずっと続けてきた活動でもあります。

紹介する活動は3つありまして、まず毎年5月に土おこしをやっております。畑は、児童たちがじゃがいもを植える畑を毎年先生方や地域の方と集まって耕していました。昨年度は、教頭先生、校長先生、地域の方などが集まって畑2面と学校にある花壇を耕しました。今年は、畑4面を耕す予定です。年に1回の活動なので、表面が草だらけだったり硬かったりとかで最初はみんな無言でやっているんですけれども、だんだん土がほぐれてくると、ちょっと余裕が出てきておしゃべりしたりもして、交流を深められるいい機会になっています。今年は、児童も参加してみんな楽しく活動しました。

次にアフタースクールスポーツです。現在アフタースクールを月2回隔週で月曜日行っていて、その間で交互にアフタースクールスポーツをやっております。この目的は子どもの体力づくりということで、転勤してきたお母さんが「北海道の子どもたちって体力ないよね」といったのが始まりで、最初は公園で遊んでいたのを当時の教頭先生から学校でやればいいのかと提案いただき、相談しながらこのアフタースクールのスポーツ版を作ろうということで始めたのがアフタースクールスポーツです。その当時、保護者の方が中心となって子どもたちの体力づくりのためのいろいろな楽しい企画を考えて、月2回月曜日に、1～3年生の低学年と4～6年生の高学年が1時

間ずつ計2時間、体を動かして楽しく活動しています。節分の時期には、お母さん方が鬼になって走り回って豆まきをしたりとか、雨で中止になって運動会が出来なかった時には、ミニ運動会として色々な楽しい企画を立てて、子どもたちの体力づくりをやって来ています。また、マット運動や跳び箱なども取り入れたりして、体育の授業とは違った雰囲気の中、楽しく活動しております。異学年とも交流できるので、子どもたちはすごく楽しんで活動しています。そして、最終日に皆勤賞と精勤賞と賞状を私が作りまして、皆勤賞はお休み0、精勤賞はお休み2回までの子たちにお菓子を付けて渡したりと、喜んでもらえるような企画も立てながらも活動していました。

3つ目は、見守り活動ということで、8月の夏休み明けからスタートします。昨年度は初めて町会の方も参加してくださるということで、顔合わせや見守り活動の説明のため、白鳥町会に集合して自己紹介等をいたしました。見守り活動を通して感じたことは、子どもたちだけでなく、通勤中の方や地域の方たちとも挨拶を交わしながら見守ることによって、その地域の様子を見れるというのはすごくいい活動だなと思っています。見守り活動は、その場にずっと立たなきゃいけないわけじゃなくて、各家の玄関からでも窓からでも子どもたちが通った時に声をかけたりして、地域全体で子どもを見守るようになればいい活動かなって思っているのです。今年の課題としましては、PTAにはもちろん、町会にも負担の無いような声のかけ方を工夫しながら、少しずつでも、子どもたちに声をかけてもらえるような地域づくりをしていけたらいいなと思っています。ただ、千代田小学校は本当に人数も少なく、子どもが少なくなると親も少なくなるので、なかなか皆さんのように町会をつなぐってということが全然できてなくて、町会に話を持って行ってもそこはちょっと大変だからって、持っていくことが申し訳ないなっていう感じの雰囲気もあるので、そこは様子を見ながら楽しい企画を立てながら少しずつ町会との交流も深めながら、学校とも子どもたちを中心にうまく千代田小学校区域らしいCSをつくりあげられたらいいなと思っています。以上です。

(事務局)

ありがとうございました。では、質疑応答に入らせていただきます。質問やご意見などありましたら、挙手をお願いします。

～休憩～

(事務局)

定刻となりましたので、会議を再開させていただきます。昭和小学校 照井委員お願いします。

(照井委員)

昭和小学校の地域見守り隊についてご報告させていただきます。昭和小学校の立地としまして、低学年のお子さんも30分～40分かけて大きな通りを越えてくるというなかなか危険なところが数々あるところです。以前から、PTAの方で、小路があって暗いだとか街灯がないなど、危険箇所について色々なことが言われていました。PTA活動の方でおさえてはいたんですが、これをCSで行うこととし、学校運営協議会を通じて発足しました。PTA活動では月に1回担当のお母さん方をはじめ、全校に朝の見守りをお願いしました。小学校1年生の入学の時期には、入学のお子さんのお母さんだけじゃなくて、他のお母さん方もぜひ見守りをしてください、交通ルールなんてわからない子は多いんですよと案内もしております。函館市は共働きが多いものですから、登校時間に要望に沿えないという事情もあります。それで、先ほどの地図を見ると、なかなか危険箇所が多く、子どもたちがどこを歩いて帰宅しているのかわからないという親御さんも多いのが実情でした。なので、地域の人たちとのつながりもそうですが、人手不足を補ったり、安全面の向上ということで、地域見守り隊の発足というのがあります。昭和小学校のこの時の教頭先生が、他の地域でも地域見守り隊を発足させていた教頭先生だったこともあり、まず手始めに見守り活動をやろうということで始まった次第です。まずは発足に当たってどういったところがコーディネーターとしてできるだろうかということや学校と話し合い、まずは学校運営協議会での周知だったり、4、5月くらいにある町会の総会を利用して、広報活動、宣伝活動をしようと、教頭とPTA会長と私とで出向いて、案内案のプリントをお配りして、参加をお願いしました。私は民生児童委員でもあるので、民生の方の会議で地域お年寄りの見守りをしているので、子どもの様子も合わせて見てほしいと言うと、町会や民生やいろんな人に広げていくことができました。

目的としては、児童の登下校の見守りを行い安全・安心な地域づくりとともにということで資料に書いてありますので、ご覧ください。一応CSの活動として、地域の見守り活動としてというよりも、子どもたちの安全が第一です。コミュニティ・スクールでいうと、Win-Winの関係が一番広がりやすいってことがあって、地域の中にはご高齢の方とか地域住民の方の横のつながりも大事ということも含めて宣伝させていただきました。内容と期待される効果ということで、実は、ピンクのバンダナすごく派手で恥ずかしいのでちょっとっていう方が多かっただけというのを最近知ったのですが、ちょろっと見せるだけでもピンクは目立つと言って宣伝しています。子どもたちにもわかりやすい色ということで、昭和小の地域ではピンクは安全の色だということを前面に推し進めたというのがあります。案内方法については、函館市全市町会防犯パトロールの集会在たまたまいい時期に昭和小学校を会場にして行うと聞いたので、この日に発足式を行いました。ということで、思っていることが実現するためにもいろんな方々に声をかけたことが形になったのかなと思っています。昭和小

学校は町会が2つまたがっているんですがもうひとつの学校に近い町会の方からも、校区じゃないけど参加できるかと言われて、生活圏がほぼ一緒であれば買い物ついでにバンダナを見せてくれたら、子どもたちはピンクだって安心できるということで宣伝しているところです。参加人数ですが、現在は50名程度ということで、100名超えるといいなと話しています。卒業する保護者さんには、卒業したら地域の方として見守りをお願いしたいのでバンダナは返さなくていいですってお話しております。これからですが、町内会、校区、近くの包括支援センターなども連携しながらやっていけたらなと思っています。以上です。

(事務局)

ありがとうございました。では、質疑応答に入らせていただきます。質問やご意見などありましたら、挙手をお願いします。

(齊藤委員)

私はこういう会は初めてなのですが、いわゆる見守り活動って何なのかなって漠然とした疑問があります。私の家でも、「助けてくれる大人がいますステッカー」が貼ってありますが、特別何をしたこともないですし、助けを求めに来た子どももいません。うちの子どもが学生時代は中学校も小学校も3クラスあり、そこそこの人数の子どもがいたんですけど、そんな中でも助けてくれてなかったし、見守りっていうのは一体何をするものなのか漠然とした疑問です。どういう目的なのですか。

(照井委員)

大人は良いふるまいをするというのが、子どもの中にあるんです。赤信号で渡る大人の後ろをついていってしまって交通事故に遭ったことがあったんです。きちんと地域で交通ルールを守って、挨拶をしながら、地域で子どもたちを育てていきたいということがはじまりだったと思います。見守り110番とか、この店に行くといいよとか、あと昭和前はタクシー業者が防犯パトロールというステッカーを付けてて、下校でもなんでもない時間に子どもが歩いていると学校に連絡をしてくださったり、子どもが困っているとタクシーに乗せて届けてくれたりといったことも協力してくださるという地域なんですけど、それでもやっぱりそのステッカーがなくなるということ、今まで考えていた挨拶だったり、防犯だったりといったことがまだちょっと足りないというか、もう少しできるということだと思っているので、それがそのまま見守りにつながっていると私は考えています。同じ地域にずっと住んでいる方ってなると、地域の愛着とともに慣れもあつたりして、そうするとちょっと良からぬ方向に行ってしまうこともあると考えると、地域できちんと正しい姿を見せてあげられたらいいなと考えているかと思えます。これら全部をまとめて、見守りと考えていました。

(神田委員)

南本通小学校でも見守りをやっていて、地域の方や町会の方とか、関わりが学校にはないけれど、地域にいる人はオレンジのたすきで目印にしています。始めたきっかけは、保護者としては子どもたちの安全・安心を守るということで見守りをしたんですけれども、子どもたちだけではなく、地域の高齢者の方も見守ることにつながっています。常に何かしらの目印みたいなのが地域にあると犯罪の抑止になるという目的もあって、みんなの思いで見守りが始まりました。やっているうちに課題が出てきて、その課題をまたみんなで解決していきながら、じゃ今度どうするというふうになるのかなと思いました。以上です。

(京谷委員)

町会は蛍光緑ジャンパーを着て見守りのつもりで立っているんですけど、子どもたちにしてみると、地域の人顔を覚える機会になっているそうです。見守る人がいてもいなくても自分たちで学校へは行けるんですけど、この人は町会の人、この人はPTAの役員の人みたいに、子どもたちが顔を覚えるという機会にはなっているということで、その人たちがいると、児童公園とかで遊んでいても悪いことができないという実情があるみたいですね。見守りとは言っているけれども、地域の人顔を覚えるというメリットもあるんだなと思って聞いていました。また、齊藤さんの担当する小学校では、学童まで距離があるので、1年生に上がる子が1人で小学校出て学童に行くまで歩けるんだらうかとかと不安に思う働く親の声は聞いたことがあったので、1年生だとまた違う不安もあるのかなとも思います。

(吉村委員)

今の発表の中に、保護者の中でも卒業すれば地域の方っていうフレーズが出てきて、私もまったく同じことを考えて5年前に最初ボランティアを集めたのを思い出しました。失礼な言い方ですが、ボランティアは無作為に集めてしまうと大失敗してしまうことがありまして、意気込んで始めようとしている計画がとん挫するということがあったりして、危険なことなんですね。保護者の方だと、この人がどういう人ってわかるので、やろうとしていることに協力を得られるのかというのは、スムーズに行事を進めていくのに大事なことだなと思って、地域の方にも来ていただくんですけど、半分は保護者の方にして始めたんです。そしたら、年を追うごとにその人が地域の人になってきて、でも、すごく学校のことが分かっている人たちなので最初に入ってきやすい。ボランティアを始めるにあたって敷居が低いんです。やっぱり同じことを考えてらっしゃるんだなと思って親近感がわきましたので、参考になったらと思いお話をさせていただきました。

(事務局)

市立函館高校 田中委員から、発表をお願いします。

(田中委員)

田中と申します。私が子どもの頃は日常的に近所の大人の目があって、いたずらをしたりすれば叱られた時代でしたので、見守り活動は非常に効果があると思います。

地域コーディネーターのお話があった時、当初は「高校なので何をすればいいだろう」と思いましたが、当時の教頭先生に「高校生たちに、この地域の経営者から話をしてもらう機会を作るといようなことはできると思います。」とお話しした経緯から、社会人講話の話になりました。

この資料は、学校が「こんな生徒になってほしい」というものです。平成19年に北高校と東高校が統合され市立函館高校としてスタートした時、初代校長が、この「何を求める」という校訓をお作りになりました。資料にありますように、「生徒のみなさんに問う。『自分の人生に何を求めるか。求める人生に向かって、今をどのように生きようとするか』ということなのですが、いい大人の私たちが聞かれても返答に躊躇するようなことを高校生にぶつけているんです。この下にある「自分は何を求めるか、常にわが心に問いかけよ。そして、自分の求めるものに向かって果敢に挑戦せよ。そして、常にそのことを考えて今を生きなさい。」という言葉が随所に出てきます。それを踏まえた上で「育てたい6つの力」として、主体的にとか、思考力・分析力など、要は自主自立ということを経験者のうちにやらせたいという学校なのです。

そこで、学校が地域コーディネーターに求めるものは何だろうと、学校とお話をしたところ、社会人講話では、この3月まで中学3年生だった高校に入学したばかりの生徒たちに、働くことや社会に貢献することの意義、楽しさを伝え、世の中には様々な仕事があり、いろいろな道を経た大人がいて、多様な生き方があるということをお伝えしたいということでした。具体的に言いますと、仕事の内容、仕事上の苦勞・工夫・喜び、高校を卒業してから現在までの道、社会人として大切なこと、高校時代に身に付けてほしいこと、あるいは頑張れというエールというようなものを話してほしいというご要望でした。ということで、金融機関役員、弁護士、一般企業の経営者の方々に声をかけさせて頂きました。なりたての高校生は、銀行が地域経済の発展に密接に関係しているというイメージは持っていないでしょうし、弁護士の仕事の本質を知って、司法試験にチャレンジしてみようと思う生徒が出るのもいいと思いますし、様々な大人の話聞いて、自分のキャリアを考えるヒントになればと、様々な業界・業種から講師をお呼びしました。

私自身がお話しした内容は、私と市立函館高校との関りについてです。息子が入学してPTA活動に参加したのですが、市函では、学校祭である「柳星祭」でPTAも行灯を作ってパレードに参加します。息子が3年生の時は会長をさせて頂きました。

が、翌年からコロナになり、様々な活動が制約を受けました。P T Aの行灯も例外ではありません。このままでは次の代に引き継げなくなってしまうということで、柳星祭がなくともP T A行灯を作って卒業式の日に関に飾らせてもらい、P T Aと学校行事との関りが途切れないうようにと、それを3年間やってきたことなどお話ししました。

(事務局)

ありがとうございました。では、質疑応答に入らせていただきます。質問やご意見などありましたら、挙手をお願いします。

以上5名の方の発表が終わりました。皆様、ご多忙の中、ご準備いただきありがとうございました。では、工藤座長から総括をお願いします。

(工藤座長)

5名の委員の皆様、発表ありがとうございました。各校それぞれが特徴を生かして実践内容を発表していただいたと思います。このCSですが、私も現役の最後の年に学校で学校運営協議会を作りましたが、まず、最初に校区の安心・安全ということで校区安全マップ作りから始めた覚えがあります。その後コロナに突入しまして、どこの学校も学校運営協議会が書面開催となり、なかなか活動が進まなかった状況にありました。それから約3年経過し、コロナの状況が少しずつ改善され、昨年あたりからそれぞれの学校運営協議会で少しずつ取組が始まったのではないかと思います。

私は昨年度より青柳ネットでコーディネーターとして活動させていただいておりますが、昨年度、最後の学校運営協議会でアフターコロナの中でどのような活動を具体的にやっていけるかということで熟議をさせていただきました。学校運営協議会の熟議を実施するに当たり、学校での働き方改革も進んでいることから、コロナ前と同じようにできること、できないことに配慮していただくことを条件に協議させていただきました。委員の方からは、様々な視点から、また学校の応援団として、環境整備の問題や学習サポートに関わることなど、たくさんの意見を得ることができました。現在、それを基に、地域でも問題になっていることを取り上げながら本年度の活動を進めているところです。

本年度、これからの活動については、各学校で町会・関係機関との連携を大切にしながら取組を進めていただければと思います。また、先程の発表の中にP T Aの皆様にご協力していただいたことがありました。各学校のP T A活動も4月から再開したようですが、コロナの3年間活動は休止状態にあり、人も代わったことから、なかなかうまく進まない学校もあるようです。CSとP T Aで協力してこれまで行われていた様々な活動を復活させてほしいと思います。CS自体は学校の応援団としてスタートしましたが、地域・保護者・関係機関と学校との関係はW i n - W

i nの関係が望ましいものです。本日の発表の中にも参考になる事例がありましたので、コーディネーターとしての活動に役立てていただければと思います。

教育委員会では、中学校区の合同学校運営協議会を推奨しております。小中一貫9年間で育成する子どもの姿を共有し、子どもの発達段階に応じて、地域・学校が連携して子どもを育てていこうという考え方が主流となっております。その中で各学校が独自に何に取り組んでいくのか、また、必要に応じては小学校同士や、他校種との横の連携も図っていただきながらコーディネーターの活動を進めていただければと思います。

今日は色々な実践発表をしていただきました。このような機会を通じて地域コーディネーター同士の横のつながりも大切にしながら、CS活動に取り組んでいただければと思います。では事務局にお戻しします。

5 閉会

(事務局)

工藤座長，ありがとうございます。最後に，教育政策推進室長の金野から一言ご挨拶させていただきます。

(金野教育政策推進室長)

本日は長い時間，ありがとうございます。素晴らしい発表も聞くことができ，また活発にご意見もいただきまして，今日は有意義な会議だったと感じております。令和2年度から開始しました地域学校協働活動連絡会議も今年で4年目となりました。皆様のご尽力で，函館市の中でコミュニティ・スクールもどんどん知られてきている状況にあり，この場をお借りして感謝申し上げたいと思います。また，新たに地域コーディネーターにご就任いただいた方々につきましては，今日の会議を通して他の先輩コーディネーターの皆さんの発表等を今後の活動の参考にしていただければと思います。現在は，地域コーディネーターの方は17名ということで，教育委員会としてはもっと地域コーディネーターを増やしていければと感じております。そのために，皆様の活動を行政としてもどんどん情報発信をしていきながら，全市的にこの活動を広めていければというふうに考えております。そして，周知をしながら，今後自分もやってみたいなという方が増えていくことを期待しておりますので，これからの皆様の活動にさらなる期待をしているところであります。そして，活動していく中で，なかなかうまくいかないこともあり，ご苦労されることも多いかと思っております。何かありましたら，いつでも事務局の方にご相談いただければと思いますので，今後も地域の子どものために皆様のお力をお貸

しいただければと思います。今後とも引き続きよろしくお願いたします。今日はありがとうございました。

(事務局)

以上をもちまして、令和5年度(2023年度)第1回函館市地域学校協働活動連絡会議を終了いたします。本日はありがとうございました。